

合計特殊出生率「見える化」分析
《岡山県出生率地域格差要因分析》

序章

(1) 問題意識と目的

問題意識

2015年の岡山県の合計特殊出生率は1.54であり、全国の1.45を0.09ポイント上回る。しかしながら、中国地方5県の中では最も低く、最も高い島根県とは0.24ポイントの差が生じている。

2010年から2015年にかけての合計特殊出生率の変化をみると、全国が0.06ポイントの上昇であったのに対して岡山県は0.04ポイントにとどまり、山陰2県の0.1ポイントを超える上昇とは大きな開きがある。

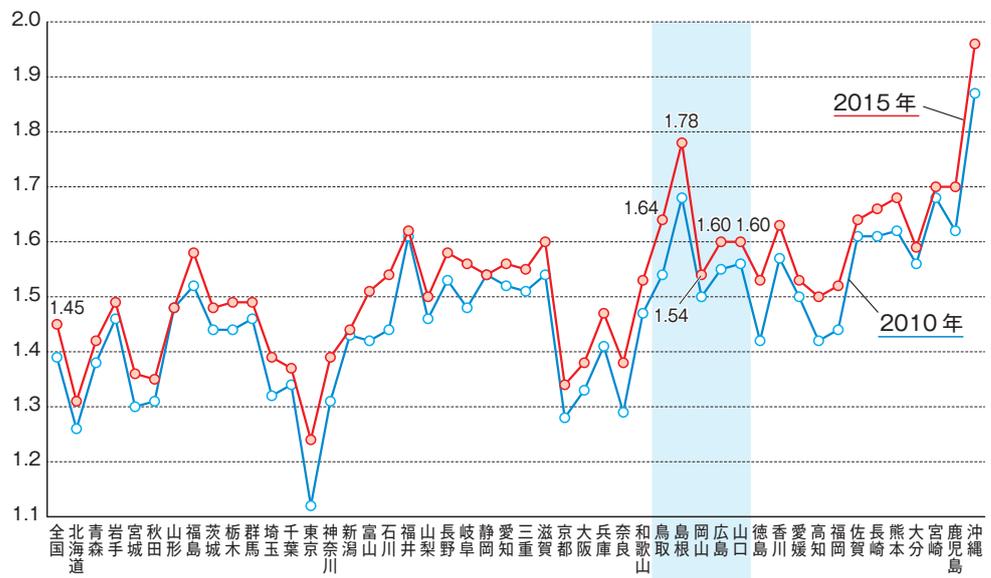
このように合計特殊出生率は、全国的に上昇しつつも大きな地域格差が生じており、効果的な少子化対策を進めるためには、地域格差の背景にある要因を把握することが必要になっている。

目的

本分析では、岡山県と中国地方他県との比較を中心に合計特殊出生率に地域格差が生じている要因を把握するとともに、岡山県と県内市町村の合計特殊出生率に影響を与えている地域特性を「見える化」することに取り組む。

本分析の目的は、「見える化」した結果を、本県が取り組むべき施策の評価・検証を行うための基礎資料とするとともに、市町村と共有することによって、広域的な連携を含め、市町村の潜在的な地域力を生かした施策の検討を後押しし、県全体として少子化対策の底上げを図るものである。

都道府県の合計特殊出生率の推移



資料：厚生労働省「人口動態調査」、総務省「国勢調査」

本分析のまとめに当たっては、国立社会保障・人口問題研究所の鎌田健司主任研究官（人口構造研究部）と意見交換を行い、アドバイスを頂いた。ここに心よりお礼申し上げる。

(2) 分析の構成

序章では、この後に、分析対象である合計特殊出生率の定義を明らかにするとともに、指標としての特徴を整理する。

続く第1章では、前半において、岡山県と中国地方他県の比較を中心に都道府県における合計特殊出生率地域格差の要因分析を行う。分析は三つの部分からなり、(1)合計特殊出生率の「地域差」に対する「出生構造要因」による分析、(2)合計特殊出生率の「変化」に対する「出生構造要因」による分析、(3)合計特殊出生率に対する「社会経済要因」の影響の分析である。

第1章の後半は、中国地方他県等との比較から明らかになった岡山県の特徴と、県内市町村における合計特殊出生率の地域格差との関わりについて分析を行う。前半と同様の三つの分析から構成される。

第2章は、第1章の分析結果を、県内市町村が施策に生かしやすいように、個々の市町村ごとの特性把握の形に編集したものである。

